

新年の



美郷町長
松田 知己

新年おめでとうございます。新型コロナウイルスに引き続き翻弄^{ほんろう}された令和4年は、二価ワクチンの普及や国産経口治療薬の承認など、明るさのある動きを含んで幕を閉じました。そして、ウィズコロナの認識を基本とする令和5年の幕が開きました。新たな始まりには期待や希望が何より大切です。みなさまそれぞれが、期待と希望を持って一年の始まりをお迎えすることを願っております。

さて、昨年は第3次美郷町総合計画の初年度として、町においては各般の施策に着手した年でした。具体的には、まだ残っている公共施設の照明LED化の設計や学友館への視聴覚コーナーの設置、サキホコレの栽培促進に係る助成の実施や子育て支援の拠点施設、旧わくわく園の跡地利用への検討着手など、計画性を意識しながら施策展開に努めてまいりました。

一方、明けた今年も、第3次美郷町総合計画の着実な展開を意識しながら、各般の取り組みを推進してまいります。具体的には、子育て支援に係る入学祝金の支給開始や幼児を主な対象にした「オリジナル絵本」の制作発行、マイナンバーカードに係る各種諸証明のコンビニ交付の実施や公共施設最適化実施計画に基づく各種改修等の実施、子育て支援の拠点施設の整備や旧わくわく園跡地の活用に係る具体の展開などに取り組んでまいりたいと考えております。引き続き、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

ところで昨年11月、賃貸住宅大手企業で毎年実施している「居住満足度調査」が公表されました。美郷町は「街の幸福度」ランキングで、昨年に続いて秋田県内1位となりました。東北管内では4位にランキングされ、昨年より一つラ

ンクアップしております。行政関係者としては嬉しい限りです。いろいろな項目に対する評価の総合点数化の結果ですので、すべての項目が良かったわけではないと思いますが、この結果を素直に受け止めて、今後の各般の取り組みの励みにしたいと思います。

ただし、町づくりの基本はサッカーやバスケットと同じように、チームプレーです。行政関係者のがんばりはもちろんですが、町民みなさまもそれぞれのお立場でがんばっていただき、力を合わせて美郷町を盛り上げていくことが求められます。嬉しい評価を下げないよう、そしてさらに上げていくよう、今年も心ひとつにみなさまでがんばっていきましょう。



ごあいさつ



美郷町議会議長

森元淑雄

新年おめでとうございます。

「二年の計は元旦にあり」とよく言われますが、サッカー界では、ワールドカップ（W杯）が年末にありました。「大金星」「番狂わせ」「奇跡」「ウソでしょう」何と呼ばれようが勝ち負けは勝ちであり、ドイツを破り、そのうえ「無敵艦隊」スペインをも撃破。初の8強進出をかけてクロアチアと戦い、PK戦の末に敗れはしたものの、よくぞ戦ってくれました。何かと暗い話題に包まれていた日本に、青空をも上回る程のサムライブルーを呈してくれ、そして一筋の光を射し込んでくれたことは紛れもない事実でありました。

加えて、夏の甲子園大会では、仙台育英高校が春夏通じて、初めて東北の地に優勝旗を持ち帰ってくれたほか、プロ野球界においてもヤクルトの村上選手の功績を称えた「村神様」が流行語大賞に選ばれるなど、スポーツ界での活躍が、

人々に夢と感動と勇気、そして元気を与えてくれたことを改めて実感させられた一年でもありました。

皆さんもご存じのとおり、スポーツにはルールがあります。ロシアがウクライナに侵攻し、やがて一年に及ぶ気配であります。そのためにウクライナ危機が生じ、その影響は当事国や他の国々のみならず日本国内にも及び、原油価格の高騰による物価高によって、家計への打撃も顕著になっております。その対応として、町も議会でも負担軽減のための支援を行ってきたところであります。今後も町民の皆様の状況をつぶさに見極め、更なる支援策を講じてまいりる所存であります。また、コロナの感染拡大については、今後も予断を許さないと断言しては、ありますが、ウィズコロナを前提としながらも、これ以上生活

の質を低下させることがないように支援を重ねてまいりる所存であります。

美郷町も誕生してから十八年が経過しました。十八歳といえば成人であり、まさに「セイシュン」真っ只中であります。一説によれば十代は「青春」、二・三十代は「勢春」、四・五十代は「盛春」、六十代は「静春」、そして七・八十代は「生春」とも言われております。美郷町はこれらの「セイシュン」の下「ともにつくる未来の美郷」を合言葉に、未来に向かって適正に変化を重ねる取り組みや脱鬼のごとく勢いのある町を目指していきたいと考えております。

本年が皆様にとりまして、良き年でありますようご祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。